

すでに - イエスは復活した
&
まだそうではない-あなたもそうなるでしょう

私がこの説教を書き始めたとき、ここアメリカは聖週間です。 私は、神の目的を達成するための手段についての説明的なメッセージだけではなく、神の心の中でグッドフライデーの目的について瞑想していました：イエスの苦しみの犠牲

...私たちの救世主イエスの苦痛に満ちた殴打、磔刑、そして死。 グッドフライデーに、私たち一人一人のために神がしてくださったことを心と思いに出すことを決して忘れてはなりません。 これによって、私たちは心の中で泣きます。 しかし、イエスの願いは、聖霊が私たちの泣き声を喜びに変えてくださることです。天国での彼の喜びは、彼が十字架上で苦勞して、人々が罪悪感と罪から解放されて生きているのを見ることです。

イエスの歴史的真相を指摘する社会は、何でも良いです。 キリスト教の休日はまさにそれを行うことを目的としています。 問題は私たちであり、休日ではありません。 私たちは年々繰り返される休日の深い意味を失いがちです。 アメリカの表現があります。親しみやすさは軽蔑を生みます。[keibetsu, unzari suru] このメッセージは、復活祭の約 3 週間後に皆さんと共有されます。 私たちクリスチャンは、復活の日というラベルを付けて世界に思い出させることを好みます。 私たちの復活した主を経験するために、休日なしで私たちを助けるために神の言葉で私たちを養うつもりです。 聖書はヘブライ人への手紙 13 章 8 節で、「イエス・キリストは、昨日も今日も、永遠に変わることはない方です」と述べています。

では、コリント第一 15 章 1-28 節を読んでみましょう。 15:51-53(ウィリアムズ訳) 共にです。

使徒パウロは、コリント人への第一の手紙第 15 章でイエスの復活に関する講話を始めます。謙虚に、しかし巧妙に表現された、v.1 の声明で、「兄弟たち、私はここでもう一度、あなたに思い出させてください。」 私たちは、コリントの信者たちを以前にパウロが第 1 コリント 1:4 でどのように称賛したかを覚えておく必要があります。「私はいつも神に感謝しています。キリスト・イエスとの結びつきを通して、神があなたに与えた霊的な祝福のために....」そして彼の賞賛のリストは、豊かに祝福された、完璧な表現、知識の充満で続いています。 今、彼らの霊的父親を正しく自称する宣教師 - 牧師として、彼は穏やかに彼らを当惑させます。

「では、兄弟たち、良いたよりの第一の重要性を思い出させてください。」

ウィリアムズによるこの翻訳のように、「本質」という言葉を、最初の重要性または優先順位を意味する元のギリシャ語の新約聖書の単語 **プロトス**に置き換えることを好むことに注意してください。ここでパウロは、グッド ニュースの最初の重要性を 3 つの基本原則、つまり**優先事項**に分けています。パウロは、彼と他の説教者たちがすでにコリントの人々に知らせていた良いたよりを繰り返しているからです。 彼らはすでにそ

れを知っていた、あるいは知っていたはずであり、その中の 3 つの原則をクリスチャン生活に適用していました。いくつかの言語では **プロトス**(ギリシャ語) - **優先度** (英語); **ゆうせんじゅんい** (日本語); **マオナ** (タガログ語); **キクンベレ** (スワヒリ語); **優先** (フランス語); **オククアラ** (ズールー)。

1 コリント 15:3 で、パウロはコリント人に、**キリストが死んだ、埋葬された、よみがえられた**というグッド ニュース内の**優先順位**または**主要な原則**を説明します。しかし最初に、パウロは**第一コリント 15:2** で、この教会が、**あなたが今立っている**、これらの 3 つの主要な優先事項に基づいて立ち続けるなら、イエスの良いたよりに耳を傾けない、すべての罪人のために蓄えられた神の怒りから**救われる**ことを思い出させます。」

2 テサロニケ 1:8。パウロは、神が啓示された最も重要な事柄をあまりにも簡単に忘れてしまうことを知っていました。このように、コリント人へのパウロの愛から、この恥ずかしい思い出が生まれました。

さて、ポールは否定的な自己疑いのテストを彼らの思考に入れていきます。

第 1 コリント 15:2b は、「**最初のあなたの信仰が偽りであった場合を除きます (無駄に)**」と述べています。彼が愛したこれらのクリスチャンを励ますだけではどうですか？ 愛はしばしば、信仰が揺らいでいるクリスチャンを助けることを意味するので、ただ座ってそれが起こるのを許してはいけません！津波が海岸に来るのを見たら、愛する人に「今日はビーチに行かないで！」と伝えます。説教者兼牧師として、彼は信仰において信者であると公言し続ける信者のためにできる限りのことをしなければなりません。一部のクリスチャンは、自分の信仰を守るために、自分自身の罪深い性質や悪魔と戦う必要はないと考えているようです。これは、種をまく人のイエスのたとえ話を思い起こさせます。イエスは農場で種まきの仕事を利用して種を植えます。((**農業従事者または農業従事者である場合は手を挙げてください ???**)) 種子は、イエスのグッド ニュース メッセージに類似しています。土壌のさまざまな性質は、メッセージを聞いた人々の理解と反応を表しています。

スプリオスまたは (無駄な) 信仰の問題と、イエスの種まき人のたとえ話を見てみましょう

マタイ 13:3-9 および 13: 19-24 からの言い換え:

- 1) 地面に落ちた種が道端に落ちた..鳥が食べた。何も理解せずに聞く人のように、そして、聞いたことはサタンに盗まれます。
- 2) 岩の多い土壌に播種され、成長は早いですが、植物を養うための肥沃な土壌はありません。暑い日差しが植物を焦がして枯死させます。メッセージを受け取り、喜びで泡立つ人のように。しかし、迫害や困難が訪れると、信仰から離れてしまいます。
- 3) 土に蒔かれたが、とげの中で、とげが成長し、植物を窒息させた。この世のことを心配したり、富の喜びを感じたりしてみことばをふさいでしまい、実を結ばない人のように。
- 4) 肥沃な土壌に播種し、作物を収穫します (100X、60X、30X)。メッセージを聞いて理解し、クリスチャンとしての人生で実を結ぶ人のように (100X、60X、30X)。これは、キリストの弟子を作ることに於いて、彼の世界に他の多くの人々に影響を与えることを意味します。

パウロがイエスの種まき人のたとえ話を考えていたのかどうかにかかわらず、霊的な原則は明らかです。パ

ウロは、キリストを公言しているが、福音を無駄に聞いた人である可能性があることを知っています。 コリント人はグッド・ニュース・メッセージを聞いて応答しました。 しかし、彼らはそのグッド ニュースの 3 つの主な原則を忘れていたようです。 したがって、彼らは偽りの、または無駄な信仰の先生である可能性があります； おそらく岩だらけの土壌の先生、または世界の心配と富と喜びのために生きる先生。 これは、キリストに対する死んだ、または死にかけている信仰を意味します。

パウロは、イエスの福音のこれら 3 つの原則について詳しく説明します。 パウロは、復活に疑問を抱いていた人々がイエスとの深い歩みを求めているのか、それとも本当にイエスと歩み始めたのか疑問に思っているに違いありません！ パウロは、クリスチャンが信仰を保ち、彼の説教において真理に集中し続けるのを助けるために、聖霊が天から送られたことを知っていました。 旧約聖書の聖書は、信者が自分が主に対して冷淡になっているのを見たとき、彼がしなければならないことは主を呼び求めることだけであることを明らかにしています。 ダビデ王が（詩篇 23：3）で言ったように、「彼は私の魂を回復させます」。 確かに、パウロはそのようなコリント人をこの死と滅びへの道から復活させたかったのです。

O.I.C.の兄弟姉妹の皆さん。 イエスへの信仰が無駄な信仰を指していると感じている人がいる場合は、弁護士スピリットによる助けが今日利用できることを思い出してください。 ヨハネによる福音書 14 章 16～17 節で、イエスは次のように約束されました。「私は父に尋ねます、そして彼は彼が永遠にあなたと一緒にいることができるようにあなたに別の弁護士を与えます;それは真実の御霊であり、世界は彼を見ることが彼を知ることもありませんが、あなたは彼を知っているので、彼はあなたと共にいて、あなたのうちにいるからです。」あなたの牧師を含む私たち全員は、まず第一に、私たちをイエスの福音への信仰に導くために聖霊を必要としていました。 そして、私たちは皆、聖霊とともに人生を歩み続けるのを助けるために、同じ聖霊を引き続き必要としています。 旧約聖書が（詩篇 127:1）で明らかにしているように、「主が家を建てない限り、それを建てる者はそれを建てても無駄です。」 したがって、神の望みは、私たちが成熟したイエスに従う者となるために神の霊に頼ることです。

ここで、パウロは何年も前にコリントに伝えたと思われるグッド ニュースを要約し、イエスに対する真の信仰に必要な 3 つの原則を強調しています。

コリント人への第一の手紙 15.3 節でパウロは言います。「私は、福音の主要な原則（本質）の中で、私が受け取ったものをあなたがたに伝えました」と述べていますが、パウロはキリスト教を発明したわけではありません。彼は道で、復活した主に会いました。彼は 第 1 コリント 11 で使徒職を強調しました。しかしここでは、福音を説教する人ではなく、福音そのものの力であり、彼が単純明快に保つのです。彼は本当にただのメッセンジャーです。

「聖書に従って、キリストが私たちの罪のために死なれたこと、

(v.4) 彼は埋葬されたこと、聖書に従って三日目に死からよみがえられたこと、

(v.5) そして、彼はケパ（ペテロ）に見られ、次に十二人に見られました。(v.6) その後、ある時、彼は 500 人以上の兄弟たちに見られました。彼らのほとんどはまだ生きていますが、中には眠っている人もいます。

それからパウロは、彼らが自分たちの罪の身代わりのいけにえとしてイエスの福音を受け入れたことを彼らに思い出させます。そして、このニュースは多くの目撃者がいる歴史的事実です。イエスの福音を受け入

れるには、キリストを信者として告白するときに、これらの 3 つの主要な原則を受け入れる必要があります。パウロはまた、これらの原則の 1 つである**死者からの復活**をどのように除外できないかを示します。それが省略されたり、取り残されたりすると、福音の建物全体が地面に崩れ落ち、何の意味もありません。

歴史的事実について言えば...すみません...罪深い世界に対する私たちの神の主権支配の全能の力と知恵を説明する歴史的なメモへの私の余談を許してください。私たちはそれが起こっているときに気づかないことが多く、理解を逃れることがよくあります。しかし、聖書は神について真実です。「**ご自分の意志の助言に従って、すべてのことを行う人。**」(エペソ人への手紙 1.11) これはアレキサンダー大王の生涯と征服において非常に明白です。

紀元前 336 年から紀元前 323 年に亡くなるまで、驚くべき速さで文明世界、西ヨーロッパ、アジア、エジプト、インドを征服しました。この出来事により、帝国全体で単一のビジネス言語である**ギリシャ語**への道が開かれました。これらの地域をローマ人が征服したとしても、文化と言語に対する人気とギリシア語の影響を置き換えることはできませんでした。koininia Greek と呼ばれるこの**ギリシャ語**は、これまで存在した中で最も複雑で正確な言語でした。使徒たちはそれをよく知っていたので、聖霊は彼らに新約聖書を書くように促しました。神は御子の良いたよりが可能な限り最も複雑に、しかも可能な限り明確に表現されることを望んでおられましたが、パウロがここ(第 1 コリント 15)でレビューしたように、子供が、イエスの良い知らせの主要なメッセージを理解できるように、最大限の単純さで説教されました。

ああ、神の偉大さ、知恵、力が、御子イエスの来臨と、イエスを信じるすべての神の子供たちの継続的な安全のために歴史のすべてを調整することをブルース牧師は言います。

ここで、本文に戻ります。第 1 コリント 15:3-4 は、罪人を救うための神の止められない計画の歴史からの例えを思い起こさせます。

このグッド ニュースの要約は、「**死んだ、埋められた、生き返られた**」というキーワードを含む 3 つの短い節に要約されています。これは**非常に単純ですが、すべての人の永遠はそれを信じることにかかっています**。同時に、新約聖書のギリシャ語の複雑さは、これらの同じ節に見られます：

元のギリシャ語のこれらの動詞の時制は、それ自体で説教を話します。ここに示されている英語は、「キリストは**死にました**」(過去形)、「**埋葬された**」(過去形)と伝えています。しかし、「**生き返った**」を表す単一のギリシャ語動詞 *egegeirtai* は、**イベント自体が発生した後も続くアクションの完全な過去時制**です。したがって、イエスは**永遠に死からよみがえりました**。パウロの時代の文明化された世界の誰もが(おそらく子供たちを除いて)、このギリシャ語の詳細に気づき、聖霊は救いの信仰の別の潜在的なコミュニケーションを持つでしょう。彼は**確かに**よみがえりました。

私が信頼し、このメッセージをある程度聞いているすべての人になることを祈っている聖書研究者は、パウロがローマ人への手紙(本)で私たちの罪を取り除くためにイエスの死について驚くほど詳細に述べていることに気付くでしょう。ここで、彼は単純な福音を議論の先頭に置きたいと考えています。彼の主なテーマは、罪そのものについての神学ではなく、**生命の事実としての復活**です。

また、「**十二使徒**」(5 節)は、イエスが復活後に現れたグループとしてここで言及されていることにも注

意しなければなりません。実際には 11 人しかいなかった（裏切り者のユダは過越の晩餐の後、自殺して彼を地獄に送った）、**グループのアイデア**の影響は変わりません。イエスが地上に来る目的である十字架に近づいたとき、彼の神性と人間性を間近で見て、イエスと親密な生活を共にした唯一の人々でした。

パウロは、復活後にイエスを見た人々について語った後、罪悪感ではなく恥を表します。

第 1 コリント 15:9 は、「私は使徒の最下層に属しており、かつて神の教会を迫害したため、使徒という称号を負う資格はありません」と述べています。

「しかし、神の自分に値しない恵みによって、私は今の私になりました。私に示された神の自分に値しない恩寵は、無駄に与えられたものではありません。私は彼ら（他の使徒たち）の誰よりも熱心に働いてきましたが、それは私ではなく、私と一緒に働いた神の自分に値しない恩恵によるものです。」

ここでパウロは、キリスト教以前の時代にキリスト教徒を迫害し、彼らの救い主を冒涇するよう迫っていたことについて、ある種の悲しみと謙虚さを表現しています。しかし、パウロは栄光に満ちた体でイエスに会いました...そして信じました。パウロは、救い主の血によって取り消された罪悪感が、イエスに近づく自信に満ちた歩みを台無しにすることを許しませんでした。謙虚さは使徒という「称号」にふさわしいものでしたが、パウロは自分の邪悪な過去が、失われた人々を見つけて救うために働かないという言い訳を彼に与えることを許しませんでした。第 1 コリント 15.10b は、「私は彼らの誰よりも多くの労力を費やしてきましたが、それは私ではなく、私と一緒に共に在る自分に値しない神の恩恵によるものです」と述べています。

チャールズ・B・ウィリアムズが新約聖書の翻訳で行ったように、ここでは文字どおりの「**自分に値しない恩恵**」を使用しています。アメリカの文化では、イエスの教会でさえ、「**恵み**」という言葉はあまり力を持たなくなっているかもしれません...もしかしたら、より深い意味を持たずに使い古された言葉かもしれません...あるいは、親しみやすさが軽蔑を生むだけかもしれません。[けいべつ、うんざりする]ときどき次のように考えることが役立つと思います。

宇宙の神は、忙しいスケジュールの中で時間を見つけて、私を見つけて破壊から救うことをポイントにしました... 私がそのような愛に値するような特異なことを 1 つも行わないことで... 自分に値しない恩恵...そのような恵み。

私たちが神の恩寵、神の**自分に値しない恵み**によって生きることを学ぶならば、困難、危険、苦難の程度はどういうわけか神の約束を変えません。クリス滕の曲を歌いながら歌うのが好きです...何も正しくできないと感じる日によくあります...彼の恵みは私にとって十分です。

(コリント第一 15:11) しかし、それが私であろうと彼らであろうと、これが私たちの説教であり、これがあなたが信じていたことです。

(コリント第一 15:12) さて、キリストが死人の中からよみがえられたと宣べ伝えているのに、死者の復活などないと言う人がいるのはなぜですか。死者の復活がなければ、キリストは復活していません。

パウロは、約 1 年後、ローマ法廷での 2 回目の裁判でアグリッパ王に演説したときと同様に、コリント人が復活を信じていないことに困惑しているようです。

（使徒行伝 26: 8）「神が死者をよみがえらせることを、あなた方全員が信じられないのはなぜですか。」

イエスとキリスト教徒の復活に焦点を当てたパウロの焦点、彼の手紙のこの部分、**第 15 章**の理由を見る前に、いくつかの旧約聖書の歴史を見てみましょう。

旧約聖書においてさえ、復活への信仰は唯一のものではなく、神の力と計画、つまり「**生命の事実**」であることを私たちは知っています。パウロは復活に関するこれらの旧約聖書の言葉に言及しませんでした。彼はキリストの復活に焦点を当て続け、人類の罪のための十字架上の贖いのために永遠に特別でした。そして、**すべての人が復活する**という神の計画をどのように明らかにするでした。

すべての人の復活は、新約聖書のヨハネへのイエスの啓示の中で、生命の事実として述べられています（紀元 100 年、コリント人へのパウロの手紙から約 40 年後）---

聖書が述べているように（黙示録 20:11-12:

それから私は偉大な白い玉座とその上に座っている彼を見ました。彼の存在から大地と空は逃げ去り、もはや見つかりませんでした。大小の死者が玉座の前に立ち、本が開かれているのを見ました。そして別の本が開かれました。それは生命の本でした。。

偉大な白い玉座の出現のために、すべての死者が復活します。聖書はまた、旧約聖書で預言者が**復活**を明確に明らかにしています。しかしまた、ヨブの言葉を通して、神が彼の誠実さを信頼したために、その男は厳しい試練を与えられたと私はさらに劇的に感じます。彼の厳しい試練の真ただ中で、彼の友人たちが彼の苦しみの原因であると彼らが信じていた罪で彼を非難したとき、ヨブは彼の神、彼の贖い主への信仰の最も輝かしい声明を述べました：

（ヨブ 19:25-27）私は、私の贖い主が生きていて、最後には地上に立つことを知っています。そして、私の皮膚が破壊された後でも、私の肉体には神が見えます。

「ヨブの安らぎの核心は、小さな言葉『わたしの』に在ります——『わたしの贖い主』という、贖い主が生きておられるという事実にあります。ああ、生けるキリストを手に入れるなんて！」（C.H.ス波尔ジョン、1855 年頃）

この牧師を、復活の信仰に関して好んでいる、別の有名な神学者の引用---

「誰も死んだ男に身を委ねることはできない！ 誰も死んだ人から何かを期待したり受け取ったりすることはできません。」（A.シュラッター、1852-1938）

このように、旧約聖書の預言者たちが神の計画をイスラエルに明らかにする何千年も前に、ヨブの中心にある**復活**の聖書の記録を見ることができます。パウロは、コリント教会へのラブレター（**第 1 コリント 15 章**）のこの部分で旧約聖書に言及していませんでしたが、コリントが洗練された都市であることは知っていました。私であろうと彼らであろうと、他の使徒と真の信者がそこにいました.... あなたは信じていました（**第 1 コリント 15:11**）しかし、パウロだけがそこに教会を植えるために聖霊の特別な油注ぎを与えられました。

ほとんどのコリント人は、ユダヤ教の聖書について無知ではありませんでした。ギリシャの文化的信条に対するパウロの理解は、コリント人への**第一の手紙 1:22-24** の熱心な書物に見られます ---

「ユダヤ人は壮観なしるしを要求し、ギリシア人は哲学を求めているが、私たちは十字架につけられたキリストを説教している。--ユダヤ人にとっては罠であり、ギリシア人にとっては無意味なメッセージである。

ひっかけ棒は、網の下で鳥を捕まえるための棒です。私は子供の頃、ダンボール箱をパンくずの上でひもに結びつけられた棒で支えて、ダンボール箱を支えてみました。ちなみに、あまり成功しませんでした。しかし、十字架が、ユダヤ人を救うために神が何をすべきかというユダヤ人の傲慢な宗教的観念をつまづかせる明確な例です。十字架はまた、論理的な哲学的推論が好きな、ギリシア人の知的心をもショートさせます。しかし、ユダヤ人とギリシア人を問わず、神の力であり神の知恵であるキリストに神が召された人々に。」

(第1コリント人への手紙 1:24)

このように、神が所有している人々は、イエスの十字架が神との赦しを買うことを信賴するために一生を準備しました。彼らがイエスの良いたよりを信じるとき、それは全能の力と全知の知恵になります。

このように、パウロは現在、特にイエスの復活についてだけでなく、一般的な死者の復活について、彼の批評家を呼んでいます。

パウロはステファヌス、フォルトゥナトゥス、アチャイコスを通じて、おそらく真の新生キリスト教徒ではない一部の教会員が、コリントのこの反復活神学に何らかの役割を果たしていることを知りました。今、パウロは、十字架につけられた救い主の復活を捨てることは、救い主自身を捨てることと同じであるという意味を述べています。

(第1コリント 15:14) もしキリストがよみがえられなかったとしたら、私たちが説教したメッセージには何も含まれていません。」 "無駄になります。" (ギリシャ語 NT)

今、パウロは、復活を否定するコリントの人々によって彼の名誉を奪われたこと（ホンネ、イゲンニカワル）、彼と彼の同僚の憤りを表明しています。（コリント人への第一の手紙 15:15）「...そして、私たちは神について嘘をついたことで有罪とされています。なぜなら、もし本当に死者がよみがえらなければ、神はよみがえらせなかったキリストをよみがえらせたと言ったからです。」

良いセールスマンのように、パウロは、コリント人に真理を納得させるために、教訓を積み上げています。パウロは聖霊、真理の御霊と協力して教会に多くの事実から正しい結論を導き出させようとしています。またはアメリカで言うように、パズルを完成させるのと同じように、ドットを接続します。（chitsujo seizen to）-（コリント人への第一の手紙 15:16 - 17）で、もしキリストがよみがえられなかったとしたら、あなたの信仰は単なる妄想です。あなたはまだ自分の罪の罰を受けています。」

イエスの十字架と埋葬が終わりであり、復活がない場合、この福音書全体は、一画面上の見せかけ、ゲーム、コンピュータ・アニメーションの想像です---お願いします!

(コリント第一 15:18) 「そうです、眠っている人たちでさえ、キリストと結ばれていたにもかかわらず死にました」。イエスは十字架で死を打ち負かし、死の力を悪魔から奪いました。ヘブライ人への手紙 2 章

14 節で、聖書は次のように述べています。 すべてのクリスチャンの運命は、キリストと十字架上の彼の体の運命に即座に結び付けられました。悪魔がまだ死の力を持っていたとしたら、イエスは自分の死によって悪魔を打ち負かしませんでした。イエスの復活は、これまで生きてきた、あるいは生きてであろうすべてのクリスチャンの復活です。パウロが**コリント第一 15 章 20 節**で言うように、キリストは墓から出る多くの実の最初のものでした。したがって、18 節でパウロは、もしキリストが墓の中にいるなら、カルバリの十字架でイエスが流された血によって罪を洗い流された人は誰もいない、と説明しています。聖書では、「滅びる」という言葉は、肉体ではなく魂の死を意味することに注意してください。

また、眠りに落ちたという用語は、キリスト教徒が地上での生活から離れることを表す言葉になり、体自体がいつか目覚めること、つまり復活を暗示していることに注意してください。イエスがラザロ（**ヨハネ 11:11**）とヤイロの娘（**ルカ 8:52**）の両方について、彼らはただ眠っているだけだと言われたとき、周囲の人々を驚かせたことを思い出すかもしれません。イエスはこの二人と他の人々を、生まれたときの体で死からよみがえらせました。これは、死者を墓から新しい体でよみがえらせる**復活**ではありません。しかし、イエスは、死と、依然として死の力を持っている者、悪魔を打ち負かすという彼の使命を知っていました。死とその支配者に対する彼の権威は、これらの奇跡によって勝利を収めました。しかし、ああ、イエスが墓からよみがえられたときはなおさらです。

今、パウロは、キリスト教徒がこの地上での祝福のためだけにイエスに従うことができると考える人々を黙らせています。

（コリント人への第一の手紙 15:19）「私たちキリスト者だけがこの世でキリストに望みを託したとしたら、私たちは世界で最も哀れな人々です。」

C.K. バレットによる翻訳もここに示しました。：

（コリント人への第一の手紙 15:19）/CKB 「もし私たちがこの世でキリストを望んでいたなら、それ以上のことは何もないのなら、私たちはすべての人の中で最も哀れです。」

「もしキリストがよみがえらなかったら、キリスト教徒はイエスの死を体に負っていたでしょう（コリント人への手紙第二 4:10）。彼らは単に**想像の産物を追求するのではなく、死を受け入れる**でしょう。パウロが**第 1 コリント 15:32 /CKB** で皮肉を込めて言っているように、「明日死ぬから食べて飲んでみよう。」はるかに良いことです。

私がこの説教、特に上記の節を準備していたとき、神はこのキリスト教の歌を、私が生まれ変わったばかりのときのように私の心に刻みました...そして、私は神を賛美します。あなたのために同じことをします：

「彼らは、私が夢見る人だと言う

見えない目で

私が生きる原則

現実と向き合わない、まあ、それが私であるなら、主よ、

あなたは私を気にかけられませんか

私はガリラヤから来た男のようになりたいだけです。」

私たちはここで良いことだけを求めてイエスに従うことはできず、神が聖霊によって私たちがイエスのようにすることを拒否することはできません。はい、多くの人が私たちがドリーマーと呼びます。しかし、彼らは聖書も神の力も知りません！ **第1 コリント 15:32** は、私たちがこの地上で何も楽しめないという意味ではないことに注意してください。パリサイ人たちはイエスを大酒飲みだと非難しました。パウロはテモテに、肉の欲望に屈することを特徴とする生き方をしているクリスチャンに反対する立場で、過度の自己否定によって過度に反応しないように呼びかけました。彼はテモテに手紙を書きました

テモテへの第一の手紙 6:17 は、現世で富んでいる人たちに、うぬぼれたり、不確実な富に希望を置いたりするのではなく、楽しむためのすべてのものを豊かに与えてくださる神に頼るように教えてください。」

愛に満ちた天の御父は、ご自分の愛を惜しみなく与えてくださることを望んでおられます。聖霊とみことばは、御父の恵みの手から何がもたらされるかを知るための私たちの助けです...そして何がそうでないか、私たちの復活など、すでにあるものとまだないもの。

テモテについての詳細。彼はパウロに弟子入りした若い伝道者であり、パウロが去った後、多くの教会で指導者としての地位を引き継ぐように割り当てられたので、非常に困難な仕事をしていました。パウロは偉大な教師、伝道者、牧師、宣教師だったので、パウロは自分の思いと心を最高のもので満たしていました。しかし、パウロがテモテに宛てた2通目の手紙の終わり近くで、パウロは「励ましの言葉」または多くの注意喚起を行います。しかし、パウロは特別な点を指摘したように私には思えます。イエスのために弟子に非常に複雑な神学を教えた後、パウロは次のように言います。

テモテ第二 2:7-8 「わたしの言っていることを考えつづけなさい。主はそのすべての段階において、あなたがたにそれを理解させてくださるからです。死からよみがえられたイエス・キリストを思い出し続けてください...」

教会の皆さん、イエス・キリストが死からよみがえられたことを覚え続けるなら、私たちはうまくいくでしょう。

死からよみがえられたイエス・キリストを思い起こすと、年を重ねるごとにイエス・キリストとの交わりは豊かになり、深まります。私たちの祈りは、生けるキリスト（死人ではありません）と天の御父に向けられています。聖霊は、テモテにイエスを覚えさせたように、私たちを助けてくださいます。なぜなら、イエスが真理の御霊について語ったように、聖霊が来るとき、彼は、私について証しするからです。」（ヨハネ 15:26）

最後に、O.I.C.の兄弟姉妹の皆さん、**私たちの復活**についていくつか話したいと思います。「非人格的な神を説教し、自己存在、自己統治の問題について話す哲学的な愚か者に決して惑わされないでください。主は生きており、私たちのことを考えておられます...」（C.H. Spurgeon）**コリント人への第一の手紙 15 章**に基づいた今朝の私のメッセージは、私たちの復活とイエスの復活を結びつけています。もう一方なしでは、どちらかを所有することはできません。

前の節の議論は、コリント人への**第一の手紙 15:20** で締めくくられています。「しかし実際には、キリストは死からよみがえりました。眠りについた人々がよみがえった最初の実です。」

私はパウロの手紙を先に進め、彼がキリスト教徒に彼らの輝かしい未来について誰も知らなかったことを伝えます...神からの謎が彼の教会とあなたの復活についてあなたに明らかにされました。

復活は人体のものなので、私はそれについていくつかのことが関連していると思いました：

人体を GOOGLE で検索すると、ブリタニカ百科事典からこの要約が得られました。

人体 - 生きた細胞と細胞外物質で構成され、組織、器官、およびシステムに編成された、人体の物理的物質。

ブリタニカは続きます - 特定の組織、器官、およびシステムの詳細な議論については、以下を参照してください: ヒトの血液、心血管系、消化器系、内分泌系、腎臓系、皮膚、筋肉系、神経系、生殖器系、呼吸系、感覚受容、骨格系。

リストは生化学システムに続きます。 この科学的データのリストを参照するポイントは、私たち人間は非常に複雑であり、もちろん、ここにいる医師は、医療を実践するために身体を何年研究しなければならないかを知っているということです。

信者にとって明らかであり、すべての人にとって明らかであるべきことは、創造主である神だけがそのような複雑な発明、つまり人体を作成できることです。

それにもかかわらず、人間の罪は、私たちの体を含む腐敗の過程に彼の創造物を置きました。 アダムとエバがエデンの園で罪を犯したとき、神の心は砕かれました。 罪から離れて聖なる状態を保つために、神はすべての人を土に帰さなければならませんでした。（創世記 3:19b/NIV）で神は次のように述べています。

「...あなたがそこから連れ去られたので、あなたが地面に戻るまで、あなたはほこりであり、ほこりに戻ります。」

神は、御子の十字架でのいけにえの死によって人を贖うことを計画されました。 それで彼はまた、すべてのキリスト教徒が復活するとき、つまり時の終わりに、人体の新しい創造を計画しました。

ここでパウロは、人類を贖うための神の慈悲深い行為の最終段階を明確に詳述しています。 キリスト教徒は、生きていても死んでも、王国の神をそのまま受け継ぐことはできません。 最高のクリスチャンは、イエスと共に聖霊の中を歩み、すべての故意の罪をやめたとしても、依然として古い性質を体の中に持っています。

そのように神は行います、神のみができることです....神は生きている信者と死んだ信者のために新しい体を創造します。それは、生まれ変わったキリスト教徒がキリストへの信仰によって彼の中に受けた新しい創造に適合する新しい体です。

パウロは今、コリント人への**第一の手紙 15 章 52 節**で次のように書いて、クリスチャンの考え方を永遠に変えてしまいました。

「秘密を教えましょう。（見よ、私はあなたに謎を教えます/ CBK）私たちは皆眠りに落ちることはありませんが、最後のトランペットの音で、一瞬のうちに、瞬く間にすべてが変わります。

パウロは、イエスの福音の片目を絶えず説き続けています。 **キリスト教は完全に終末論的、つまり終わりの時の神学です。** 信者のための神の計画は永遠であり、現在でも地球上の信者への神の存在の祝福がすでにあります。 だけでなく、私たちの想像や説明を超えた輝かしい未来。 しかし、彼はそれが真実であることを私たちに知ってほしいと思っています。

終末期または終末に焦点を当てた宗教 – 私が新たに生まれ変わったキリスト教徒だったとき、聖書の教師が言ったのを聞いたように、「イエスの忠実な信奉者であるためには、永遠に照らして生きなければなりません。」 この説教者は、完璧なパフォーマンスや服従を強調していませんでしたが、いずれかを達成できるかどうかは、この観点にかかっています。 キリスト教は、最終章が聖書で私たちに語ったことがなければ意味がありません：**復活は人生の事実です。**

最後のラッパ（53 節）は、**神の怒りが地球上に完全に注がれた大患難時代に、神の天使によって吹かれたラッパではありません。** ほとんどの聖書学者は、**コリント人への第一の手紙 15:51-53** で説明されているように、携挙（生きているキリスト教徒と死んだキリスト教徒の両方を連れ去ること）の後まで、この最終的な裁きが、終わらない、または、まったく、始まらない可能性があることに同意しています。

ここで、「最後」という言葉は、新しい体の賜物で、罪深い体の生命を終わらせるトランペットの爆音を意味します...イエスを信じる信者は、終わりのない永遠の未来のために神の王国に入ることができます。 したがって、最後のトランペットは、**すべてのキリスト教徒にとって時の終わりを意味します。** 神は時間を超えて生きているので、私たちはある意味でそうするでしょう、それは永遠です... 計り知れない時間. 私たちの携挙の後、まだ地球に来る出来事があります。すなわち、神の怒りが地球と地球上のすべての人々に注がれました。 私たちは、すべての支配者、政府、人々を主権の下に置くために彼の出現のために彼と一緒に戻ってくるのを待っているの、私たちのイエスの隣でこれらの出来事を見ているかもしれません、それから私たちは地球上で彼と一緒に支配します。

携挙後の終末の正確な時刻の詳細は聖書にあり、私は将来これについてもっと説教したいと思っています。 しかし、**重要なことは、パウロがコリントのキリスト教徒に強調しているのは、神の計画のタイミングではなく、彼らの個人的な復活そのものに対する信仰であるということです。** パウロは、コリント人が**イエスの復活と主に属する者が**、神によって約束されたように、嘘をつかない自分自身について心をつにすることを望んでいます。 パウロは、イエスの復活に信仰を持っているなら、**自分自身にも信仰を持たなければならない**と強く宣言しています。 **もう一方を信じなければ、一方を本当に信じることはできません。** 「信じる」という言葉を強調させてください。 聖書の多くの記述は、完全な理解を要求していません。ある意味では完全な理解に反するかもしれません。パウロは、主イエスから受けたものを完全に理解できるよう最善を尽くしています。 しかし、パウロはこの手紙までこれを謎、または秘密として提示しています (**1 コリント 15**)。 イエスが最初に来られたことも、彼が世界に説明するまで、ほとんどの人にとって謎でした。 神の奥義は、秘密にしておくことを意図したものではなく、信じられているものであり、必要に応じて、「**信仰がなければ神を喜ばせることはできない**」という私たちの理解を超えています。 (**ヘブル 11:6**) .

実際、パウロが **1 コリント 15 章 19 節** で言ったことを考えると、あなたがイエスのために生きようとするのは、もし神が望むなら、この世で多くの苦しみを伴う人生であり、あなたの信仰が今ここを超えて見て

いるからです。？よろしければ、「すでに」と「まだ」です。

コリント第一 15 章 52 節はこう述べています。「ラッパが鳴り響き、死者は朽ちない体でよみがえり、わたしたちは変わるからです。

コリント人への第一の手紙 15:54 -55 / CKB は次のように述べています。「しかし、この腐敗しやすい体が腐敗を身に着け、この死すべき体が不死を身に着けたとき、『死は勝利に飲み込まれた』という書かれた言葉が成就するでしょう。(55) 死よ、あなたの勝利はどこにありますか？ おお、あなたの棘はどこだ？」

これは、イエスがカルベリーの十字架で苦しんでいたときに、彼を信じるすべての人に見たものです。父なる神との永遠の交わりのために、神の御前に柔らかな純粋な心を持ち、神の血で洗われて罪の斑点がなく、腐ったり死ぬことのない体を持った新しい人類の創造....新しい人類は 神の息子たち....そしてそれが教会の未来です。

神は、聖霊に触発されて、ここでパウロの言葉で贖われた人類のための神の計画の完全な成就を明らかにしています。パウロは終わりの時に身を置き、死をすでに敗北したものとして嘲笑し、もはやその古い刺し傷を行使することができません。今日でも死が優勢であることを私たちは知っていますが、その背後には「与え、そして奪う」神がおり（ヨブ記 1:21）、その鍵は私たちの主イエスによって保持され、使用されています（黙示録 1:18）。死は依然として私たちの最後に滅ぼされる敵です（1 コリント 15:26）。それでも、復活した主イエスへの信頼は、死が私たちを復活へと導く場所への信仰を与えてくれます。

第 1 コリント 15:56 で、パウロは次のように書いています。「**死の棘は罪であり、罪の力は律法です。**」したがって、死は罰として認識されます。法律は、罰が当然であることを明確にしています。神の律法を破ったり、罪を犯したりしなければ完全に回避できたであろうことを知って、この罰を経験することは苦痛です（それにもかかわらず、不可能ではありますが、苦痛な考えです）。このように、刺し傷は、死が迫り来る罪人の心の苦痛です。**クリスチャンにとってはそうではありません。** 身体の痛みと苦しみは、罪人にとってと同じくらい大きいかもしれません。それは私たちの個人的な神が下す決断です。

しかし、すべてのクリスチャンは自分の罪のために罰せられることはありません。イエスはすでにそのすべての罰を十字架で負われました。したがって、肉体的な死は残りますが、刺されのない信者は、イエスの中で真に眠りにつくことができます。

したがって、コリント第一 15 章 57 節でのパウロの喜びは、「しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいます。」

パウロはこのラブレター、コリント人への第一の手紙をコリント教会に書きました。コリント教会は、聖霊が彼と協力して植えた教会です。彼は、彼が書いたすべてがイエスとの歩みにとって不可欠であることを明らかにしています。

この非常に有益な手紙には次のものが含まれます。コリントでの知恵と分裂。姦淫；訴訟；結婚と関連する質問；偶像に捧げられた食物；キリスト教の日曜日の集会；精神的な贈り物；**復活**；寄付のコレクション、十分の一。さて、私たち説教者が会衆への説教の後で不思議に思っているようなものです。彼らが覚えてい

るのは、私が話した最後のいくつかの言葉だけですか？ ここコリント人への第一の手紙 15 章で、パウロはほとんど言っており、ある意味で暗示していました---

「この手紙の、他のことはすべて忘れてください。しかし、死からの復活、第 15 章を、イエス キリストの福音の中心として思い出してください。」

コリント人への第一の手紙 15:58 では、「だから、愛する兄弟たちよ、主の業において常に杯をこぼすことなく、動かされることなくしっかりしててください。 なぜなら、あなたがしているように、主に仕えるあなたの労苦は決して無駄にはなりません。」

その小さな単語「そう」は次の意味です。

復活は事実です！（じっさいのところ）、

既に - イエスは復活し、永遠に生きています

まだですが、-あなたも復活し、永遠に生きます。

それで、パウロは結局、コリント人への第一の手紙第 15 章 1 節を始めたところに行き着きます。単語である偽作の、無駄に、捨てられましたです。しかし、彼は、イエス・キリストを真に告白する信者にとって決してそうである必要はないことを徹底的に説明しました。

参考にした聖書

(Williams NT) - 特に断りのない限り、すべての参考文献

(Greek NT) – The Zondervan Greek and English Interlinear New Testament (NASB/NIV) by Mounce & Mounce , 2008.

(CBK) – C.K. によるコリント人への第一の手紙 バレット、2000 年。

引用

アドルフ・シュラッター (1852 年 8 月 16 日 – 1938 年 5 月 19 日) は、世界をリードするプロテスタントの神学者であり、ドイツで、新約聖書と系統学を専門とする教授でした。

チャールズ・ハドン・スポルジョン (1834 年 6 月 19 日 – 1892 年 1 月 31 日) は、英国の、特定の、バプテストの説教者でした。